

加古川J.C

[兵庫県]

現役の活動を「あたたかく見守り」、応援団として支援する

加古川市は、古くから山陽道の宿場町として栄え、市の中央を兵庫県下最大一級河川「加古川」が流れ、加古川の南部臨海地区は、鉄鋼業を中心とした工業地帯、中部は大型店舗が立ち並ぶ商業地帯、北部は田園のどかな農業地帯、またJRをはじめ交通の便がよく、神戸・姫路・大阪の通勤圏内と言うこともあってベッドタウンとして、人口(約27万人)は年々増えつつある状況です。

加古川には、多くの古墳・神社仏閣があり、5世紀初頭、西条古墳群(行者塚古墳、人塚古墳、尼塚古墳等)が築造される、589年聖徳太子により刀田山四天王寺聖霊院「西の法隆寺」として、建

立された国宝「鶴林寺」、749年孝謙天皇の勅願所として「宗佐厄神八幡神社」が創建される、また宮本武蔵は「高砂米田村の生誕説」を強めた養子宮本伊織(いより)ゆかりの「泊まり神社」の「棟札」等と言った歴史遺物も多く存在します。地場産業としては、建具・靴下、また近年、全国各地の名物として、よくテレビで紹介された、牛カツをご飯の上に、その上からさらにデミグラスソースをかけて食する「かつめし」発祥の地です。

社団法人加古川青年会議所は、1958年大阪J.Cにご指導を頂き、姫路J.Cのスポンサーのもと加古川市・稲美町・播磨町・志

方町1市3町(※今現在は、志方町が加古川市と合併1市2町)の青年38名によって設立され、1959年日本で151番目、兵庫県下で4番目の青年会議所として承認されました。1978年には、社団法人格を取得し、本年前川真一郎理事長のもと80名の現役、特別会員370人で創立50周

年を迎えます。

O.B会の名称は「春秋会(しゅんじゅうかい)」。名の通り春に一回、秋に一回開催されます。活動内容は、特別会員同志の親睦を中心に行われます。又その際、現役からの要望・依頼等々にも対応しています。昔から現役の活動に対して「口は出さない」と言った考えのもと、現役の活動は「あたたかく見守り、何かあれば支援する」この志で、本年の50周年に対して「春秋会」は、さらに現役との「絆」を深め、愛する郷土「加古川」のために活動する、現役の応援団として支援して参ります。

日本J.Cシニア・クラブ

兵庫ブロック担当幹事 王 茂厚



懇親会



前川理事長はじめ直前正副



50周年井上実行委員長挨拶



世話人挨拶